

（表）

小平市いきいき協働事業提案制度提案協働事業提案書

<p>提案する協働事業の名称</p>	<p>生ごみ堆肥で作った野菜を食べよう (地産地消・資源循環モデル事業)</p>
<p>1 提案する協働事業の目的・目標（社会や地域の課題を踏まえ、提案する協働事業の意義や必要性、具体的に達成を目指すこと。）</p> <p>有機資源（生ごみ）を地域で活用し循環させるモデル事業を実施することで、ごみ削減、地産地消、農家と消費者の交流を推進し農のあるまちづくりに貢献する。</p>	
<p>2 提案する協働事業の分野（主となる概要分に○をしてください。）</p> <p>1 保健、医療又は福祉の増進 2 社会教育の推進 3 まちづくりの推進 4 学術、文化、芸術又はスポーツの振興 ⑤ 環境の保全 6 災害救援 7 地域安全 8 人権の擁護又は平和の推進 9 国際協力 10 男女共同参画社会の形成の促進 11 子どもの健全育成 12 情報化社会の発展 13 科学技術の振興 14 経済活動の活性化 15 職業能力の開発又は雇用機会の拡充の支援 16 消費者の保護 17 1から16までに掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助</p>	
<p>3 提案する協働事業の内容</p>	
<p>(1) 実施時期・期間（いつ行うのか。）</p> <p>2010年4月～2011年3月</p>	
<p>(2) 実施場所（どこで行うのか。）</p> <p>市民が家庭で生ごみ処理物を作る。堆肥場（小平市所有地）で、市民が提供した生ごみ処理物を農家が堆肥化し、それを使って農家が畑で野菜を栽培し、それを農家の直売所で販売し、生ごみを提供した市民を含む市民が購入し家庭で食べる。 市内の公共施設（公民館など）で、生ごみ堆肥に関する学習会を開催する。</p>	
<p>(3) 対象者（誰・どこを対象に行うのか。）…具体的な対象者・対象者数、対象地域など</p> <p>生ごみ堆肥を作り、畑で野菜を栽培する市内農家（粕谷英雄氏）、生ごみを有機資源として提供する小平市民（鈴木町他市内の資源循環に関心がある世帯約25～30世帯） 生ごみ堆肥で育てた野菜を購入する市民、及び生ごみ堆肥やそれで育てた野菜に関心のある市民</p>	

(4) 実施手法 (どのような内容・方法で行うのか。)

1. 当会が広報し、生ごみ処理物を提供する市民を募り、生ごみ処理物を提供してもらう。
2. 当会が有機資源(生ごみ処理物)を回収、もしくは市民が直に堆肥場に持ち込む。
*生ごみ処理物とは市民が家庭でEMぼかしなどで処理した生ごみのこと
*堆肥場の所在地(小平市小川町2-1189-3、市に物納された農地)
いきいき協働事業として市に土地提供の支援・協力を仰ぎたい。
3. 堆肥化は農家粕谷英雄氏が行い、生ごみを提供した市民も協力する。
堆肥原料(有機資源):市民提供の生ごみ、/乾燥牛フン(袋詰めの製品)
/腐葉土/米ぬか
<作り方>上記の材料を混ぜ定期的に一ヶ月間攪拌し、発酵が終わったら二ヶ月間熟成させる。
4. 農家粕谷氏が畑で、上記生ごみ堆肥を使用し野菜を栽培する。農作業に市民も協力する。
5. できた野菜を、生ごみを資源として提供した市民が購入し、消費する。
一部の野菜はクーポンの形で買い取り、市民がそのクーポンを知りあいの市民に提供することで、有機資源を使った野菜の良さの普及につなげる。
年数回、生ごみ堆肥で作った野菜の即売会をイベント的に行い、もしくは既存のイベントに野菜を出品し、一般の市民に宣伝する機会とする。
6. 生ごみ堆肥についての学習会を開催し、生ごみの有機資源としての活用についての市民の理解を深める。

(5) 役割分担 (具体的な役割分担)

提案団体が担う役割	<ul style="list-style-type: none">・生ごみ堆肥を使って野菜作りをする農家の開拓・交渉・生ごみ処理物を提供し、できた野菜を買い取る消費者の開拓・生ごみ処理物堆肥作製協力など必要な作業・農家と消費者の仲介・生ごみ堆肥についての学習会を開催・結果の検証
市が担う役割	<ul style="list-style-type: none">・堆肥場の土地の提供・事業に対するアドバイス・支援・結果の検証

(6) 解決される社会や地域の課題 (対象者がどう変わるのか。)

- ・排出可燃ごみ量の約半分を占めるといわれる生ごみを有機資源と位置付け堆肥化し活用することで、ごみを削減し、同時に生ごみの資源としての有効性を実証する。
- ・市内から出た生ごみでプロの農家が堆肥を作り、野菜栽培し、そこに市民が関わることで農家と消費者の顔の見える関係を構築し、農家・市民双方の意識改革を図り、農のあるまちづくりを前進させる。
- ・有機資源としての生ごみの地域内循環から、地産地消の推進、食農教育の実践、地域活性化につなげる。

<p>(7) 期待される具体的な成果や効果（目的の達成、成果や効果を確認する具体的な項目・指標等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ堆肥の有効性の確認 ・生ごみを有機資源として活用し、地域で循環させる。 ・地産地消や食農教育の推進 ・農家と消費者の交流
<p>(8) 事業の特徴（先駆性、独創性など事業の特徴や最も重視していること。）</p> <p>市民団体と市が協力して農家と消費者に働きかけることで、市民がごみとして処理しているものが有効な資源であることを共通の認識とし、市民一人ひとりが生活を見直し、さらに地域にある資源を循環させる取組を前進させる。 市民と農家との顔が見える結びつきをつくる</p>
<p>4 市と協働する意義及び必要性</p> <p>これまで、他の事業で市民と農家と市が協働することで、農地保全がスムーズに進んだという体験をした。 市民だけ、または市だけが動いても実現がむつかしいことでも、生活に根差した活動領域をもち、小回りのきく市民団体と、大きな基本的な施策、方針のもと市民に働きかけ説得力をもつ行政とが、両者の特性・強みを持ち寄ることで、前進する可能性があると考えます。</p>
<p>5 協働による相乗効果</p> <p>市民と市が連携しているということで、事業への信頼感が生まれ、農家や消費者が協力する体制づくりが可能となる。</p>
<p>6 その他</p> <p>生ごみの資源活用を、農と共存する小平のまちづくりにつなげたい。</p>

小平市いきいき協働事業提案制度提案協働事業収支予算書

1 提案団体名・提案する協働事業の名称

提案団体名	NPO法人 小平・環境の会
提案する協働事業の名称	生ごみ堆肥で作った野菜を食べよう (地産地消・資源循環モデル事業)

2 収入

区分	予算額	摘要
市事業費	287,800 円	
団体事業費	0 円	
	円	
	円	
合 計	287,800 円	

3 支出

区分	予算額	摘要
講師謝礼	20,000 円	生ごみの資源活用についての学習会講師料 2万円×1名
資材費	31,196 円	生ごみ堆肥づくり資材 堆肥を仕込むのは 2010 年 5 月（8 月使用）、11 月（3 月使用）の 2 回 乾燥牛フン堆肥（JA 東京むさし） 15 キロ @ 766 円 × 20 袋 腐葉土 : 9 キロ @ 378 円 × 42 袋
ガソリン代	180 円	生ごみ処理物の運搬（8 回）・イベントなど野菜を販売時（2 回）の運搬 堆肥は年 2 回（各 4 週）回収 3 km × 10 回、ガソリン 1.5 ㍓使用 車の燃費キロ 20 リットル、ガソリン代はリットル 120 円で計算

人件費	76,000 円	運搬 10 時間×800 円×2 人 市民公募作業（延べ 5 時間）、説明会 開催（延べ 10 時間）、市民・農家と の調整作業（延べ 25 時間） 40 時間×800 円（延べ人数） 学習会 （企画・準備）10 時間×800 円（延べ 人数）（当日）3 時間×800 円×6 人） 報告書作成 7 時間×800 円（延べ人数）
消耗品費	9,974 円	紙代（A4 白 500 枚 650 円、カラー 1000 枚 2730 円（1365 円×2）、ポス ター用画用紙 780 円（26 円×30 枚）、 模造紙 64 円（32 円×2 枚）以上日本 堂）、文房具（ガムテープ 190 円、マ ジック（ポスカ）1160 円）、写真印 刷などインク代（キャノンプリンター 用 3300 円）、CDROM(100 円)、カセッ トテープ(100 円)、堆肥用袋（300 円）、ひも（600 円）
印刷費	39,000 円	連絡、ニュース、説明会・学習会チラ シ・ポスター・資料、野菜クーポン券 など 600 円（公民館で印刷） 報告書印刷代 A4 カラー16 ページ 200 部 38,400 円（プリントバック）
通信費	3,950 円	郵送料（成分分析用堆肥、報告書原稿 など）1700 円 振込手数料 1500 円 ファックス 10 円×25 人×3 回
保険	12,500 円	ボランティア保険（社協） 生ごみ処理物提供者が堆肥場、畑で援 農活動する場合に適応 500 円×25 人
その他	10,000 円	事業説明用看板（畑と堆肥場に設

		置) 作成資材 : 板 3200 円 (1600 円 × 2 枚)、角材 (2200 × 2 本) ペンキ代 (2400 円)
その他	35,000 円	堆肥成分分析・土壌分析費 静岡県 川合肥料に依頼
その他	50,000 円	アドバイザー (堆肥化協会) 依頼費 (説明会参加、農家との情報交換、 生ごみ処理物提供者へのアドバイス)
合 計	287,800 円	

4 収支予算の積算根拠となる資料名

・資材費腐葉土価格参考

1、グリーンファーム腐葉土 20L (9kg) ¥378

<http://store.shopping.yahoo.co.jp/9e-shop/3003.html>

3、農協の腐葉土 18 リットル (8.1kg) 588 円。

・看板資材 : <http://wood.shop-pro.jp/?mode=srh&cid=&keyword=%B4%C7%C8%C4&sort=p>

<http://greenplus.co.jp/>